



重要無形民俗文化財

「近江中山の芋競べ祭り」

滋賀県蒲生郡日野町大字中山の野神山に設けられた祭場で、熊野神社の氏子である東谷と西谷から奉納された里芋(トウノイモ)の長さを競う祭りです。

祭礼は「山若(やまわか)」という若者集団によって取仕切られ、神の角力(すもう)をとる「山子(やまこ)」や、進行の補助を行う「勝手(かって)」、「おとな」と称される熊野神社の宮座の人々がたずさわる中、おごそかに進められます。

祭りに向けて

例年8月になると東西それぞれの地区で、宮座や古老たちの指導のもとに、山若や山子が「ナラシ(練習)」などを行うほか、道具の飾り付け、神饌の準備が進められます。月末には両地区の住民により、野神山の整備が行われ、当日を迎えることとなります。

当日の流れ

9月1日の早朝に起こされた芋は、それぞれ太い竹に飾り付けられ、その時を待ちます。

午後、熊野神社に宮座、山若、山子など関係者が参集し、祭儀が行われた後、東谷と西谷の芋を携えた行列は、別々の道を通って野神山へ向かいます。

祭場は、竹矢来で仕切られた石敷となっており、中央に東西の境となる「芋石(いもいし)」が据えられた独特の空間となっています。

祭儀が始まるとまず水が廻され、さらに神に対して膳や酒を供えたのち、自分たちの膳が出され、最後に人形が飾り付けられた神饌「かわせの半切」が献上されます。この間、祭儀は厳粛な雰囲気の中、静かに進みますが、東西で異なる衣装と所作、所作の美しさが見どころとなっています。

そして、山子による神の角力(すもう)が取られると、いよいよ芋の長さが競べられます。長さを測る際には、榎の木を二つに割った「しょうじゃく」を用い、数回繰り返して長さを競べます。この時行われる滑稽な所作などから、俗に「天下の奇祭」とも呼ばれます。また、競べる際にお互いが述べる口上も独特で、特徴の一つとなっています。

俗に西谷が勝てば豊作、東谷が勝てば不作になると伝えられています。

これら個性的で古俗を伝えている点などが評価され、平成3年(1991)国の重要無形民俗文化財に指定されました。

芋くらべ祭保存会